

# 気管挿管など意見交換

製鉄室蘭病院救急症例検討会

製鉄記念室蘭病院  
(松本高雪院長)の救急症例検討会がこのほ

ど、室蘭市知利別町の同病院で開かれ、西胆振の救急隊員らが、気管挿管や、胸痛を訴えた患者の搬送症例などについて医師らと意見交換。患者を搬送する

側と治療する側で、より一層の連携強化の必要性も確認した。

室蘭市消防署水難救助隊の今年4月発足を受け、西胆振管内の各消防署救急隊と、同病院の連携強化を図る目的で開催。管内救急隊員や同病院の医師ら計

約50人が出席した。

この中で、市消防署は、救急救命士の処置として、2011年(平成23年)8月から追加された「ビデオ硬性挿管用喉頭鏡による気管挿管」について、初めて実施した症例ーに関して報告。「今後も挿管が増える予想される。ビデオ喉頭鏡の利点や欠点を研究し、今後の活動に生かしたい」と説明した。

これに対し、医師からは「心肺停止は、気道確保や病院搬送など(症例によって)最優先すべき事項がある。」

現場と医療機関とのコミュニケーション向上を進めることも重要」などとアドバイス。通報受理から病院搬送までの迅速な対応や、意識共有の必要性などを確認していた。

また、千葉大学医学部付属病院救急部・集中治療部にも在籍していた、製鉄記念室蘭病院サテライトクリニック知利別の高井信幸院長が、「水難救助活動での留意事項と高圧酸素療法」をテーマに解説。参加者は、メモを取りながら耳を傾けていた。(松岡秀宣)



救急症例から連携強化の必要性などを確認した検討会